

第 1 回千代田区エリアマネジメント団体ガイドライン 検討会における委員意見対応表

(1)エリアマネジメントについて団体ガイドラインの概要について

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応方針等
○ステークホルダーが多様になっており、町会内での様々な合意形成を多方面にとることが難しい。また、町会自体の高齢化が進み、担い手不足でお祭に参加できなくなったところもある。町会とエリアマネジメント団体との連携が必要になっているのではないかと。エリアマネジメント団体のあり方を考える時、町会との関係性を含めて議論していけると良い。	印出井 委員	■第2章 1「エリアマネジメントにおける実施主体の課題」(P16)で整理
○町会の構成員不足は本当に深刻である。町会の9割以上が地元で根付いた人であり、新住民はなかなか町会に入ってくれない。イベントなどをやるにしても活動費が不足している。	高岡 委員	■同上
○町会にはイベント実施などのノウハウがない。地域にある学校・オフィス・新しくマンションに住んでいる方などのノウハウを借りたい。つなぎ役をエリアマネジメント団体には担っていただきたい。	鍋木 委員	■同上
○資金面では、商店街にはいろいろと支援があるが、今行っているエリアマネジメント協会には何も手立てがない。	菊原 委員	■同上
○町会員数が減って、昔通りの活動ができなくなっているというのは、千代田区全体の問題である。町会だけでやろうとすると、負担が大きいので、様々な既存の会社などにアプローチをして、共に連携をしていくスタイルを取らないと難しい。	前田 委員	■同上
○新しい住民の方は、子育てなどの共通のテーマを軸にした活動に関心を持つことが多いが、そうした活動は、地域と連携したくても、テーマコミュニティがゆえに地域とのつながりがなく難しさを感じるようである。そうした活動と地域がエリアマネジメントを通して繋がれると良いのではないかと。	矢部 委員	■同上
○同じビジョンを持った人たちが、どうやって取り組みを始められるかという点に加えて、持続的に育てて発展させていけるかの手掛かりになるようなものになると良い。	重松 委員	■第 3 章「エリアマネジメント団体の設立と運用」で整理
○今回示された素案は、各項目について網羅的に充実した記載がある一方で、それが要点のつかみづらさにつながっていると感じる。	重松 委員	■組織形態に関する記述を第 3 章に移動し、一部削除 ■イラスト等を用いた表現とする。

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応方針等
○エリアマネジメント“活動”の主体の分類に“個人”が存在し、関係人口たる個人が入りやすい入口を作る必要はあるかもしれないが、“エリアマネジメント団体”の役割と在り方を論じる際に、並びで“個人”が示されると論点が不明瞭になるので、記載の仕分けをした方が良いのではないか。	重松委員	■第3章1「エリアマネジメント団体の定義」(P24)で個人と団体の関係性について整理
○個人の活動と団体の活動というのは、別の枠組みの方が良いのではないか。	品川委員	■同上
○公共空間などでの活動では、道路の占用料や警備員の人件費が非常にかかる。また、エリアマネジメント広告はアートでも広告物とみなされる場合があり費用がかかっている。持続的な活動をしていくためには、そういった費用や新しい何かを取り入れていく際の制度活用などのサポートがあれば非常にありがたい。	内藤オブザーバー	■第2章1「エリアマネジメントにおける実施主体の課題」(P16)で整理
○活動の幅が広がるので、目的が一致すれば、千代田区内の他団体や他エリアとも連携できると有意義である。	内藤オブザーバー	■第2章2「千代田区におけるエリアマネジメント活動の将来像」(P19)で他組織等との連携について記載予定
○生活しているか否かの分け隔てなく、このまちを良くしていくことを一つの共通目的として、みんなの意見を聞いていかないと良いものがないのではないか。また、郊外の住宅地とは違う意識を持ってエリアマネジメントを考えていかないと、異なる方向へ行ってしまうのではないか。	細木委員	■第2章1「エリアマネジメントにおける実施主体の課題」(P16)で整理
○新住民の地域への入り口としては、小学校が一つのプラットフォームになり得る。	小林委員	■第3章2「エリアマネジメント団体設立から活動実施のステップ」の地域団体等の状況(P25)で整理
○企画してくれれば手伝うという人材は、地元や地域にかなりいる。やり方のアドバイスや、手伝える団体などの情報を教えてもらえると、動きやすくなる。	小林委員	■第2章1「エリアマネジメントにおける実施主体の課題」(P16)で整理
○商店もほとんどない住宅街で、静かで安心して暮らせるまちを好んで越して来た人が多い中、エリアマネジメントがどう展開できるのか。新しいマンションができた時、マンション開発業者との関わり方など、持続的な連携が出来るかが課題である。	上村委員	■同上
○公共空間を使った施策が多いため、行政、警察等への折衝が欠かせない。手続きも煩雑であり、業務ごとに交渉内容が異なり、テンプレートが作りにくい。また、公共空間を使った事業は多様なステークホルダーのバクトルを合わせることが大変で、継続的な実施が困難である。	土方委員	■同上

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応方針等
○賑わい創出を恒常的にするには、商店街として、申請から許可を得るまで、かなりの時間と労力がかかることが課題である。	小林 (慎)委員	■同上
○エリアマネジメントをこれから始める人も、始めている人にとっても参考になるようなものを策定できると良い。	藤本 委員	■第3章2「エリアマネジメント団体設立から活動実施のステップ」(P25)で整理
○町会は活動したいけれど人手がない、お金もないという時、地域貢献したいという企業とのマッチングのようなものもあっても良いのではないか。	加島 委員	■第2章1「エリアマネジメントにおける実施主体の課題」(P16)で整理
○町会に入っていない方達の活動と既存の団体がバッティングしないよう、どうしたら上手くやっていけるかを考えていきたい。	加島 委員	■同上
○今回のガイドラインは、やっている人が満足するような、みんな違ってみんな良いみたいな方が良いのではないかな。一般解を作ってしまうのは大変であり、勿体ない。どこでも適用できるというものより、千代田区で既にやられている沢山の実績をしっかり束ねていき、最後に皆さん一緒にやりませんか？新しくやりませんか？といったようなものにした方が、ガイドラインとして伝わるのではないかな。そのためには、千代田区のモザイクというか、パッチワークみたいになっているものを可視化していくことも大切ではないかな。	丹羽 委員	■第1章参考「千代田区の地域特性」で千代田区内の既存のエリマネ団体の一覧(P9)を追加 ■第2章2「千代田区におけるエリアマネジメント活動の将来像」(P19)で整理
○千代田区の中で、複数の地区を担当する人がいても良いのかもしれない。専門家がいくつかの地区を見ていき、エリアマネジメントとしてやるべきことをそれぞれの地域の皆さんと一緒に議論しながら作り上げ、活動は地域の皆さんなど、担い手の役割分担を明確化していった方が良いのではないかな。	長谷川 委員	■第3章2「エリアマネジメント団体設立から活動実施のステップ」(P36)にエリマネ団体活動の運用に関して、専門家、まちづくりプラットフォーム等との連携を整理
○住民と行政がエリアマネジメント団体に対して何を求めているのか、何を期待しているのかといったものを、もう少し解像度を高めていく必要があるのではないかな。	長谷川 委員	■第1章「エリアマネジメント団体とは・・・？」で整理
○区としては、規制緩和はもちろんだが、例えば各地区でどんなことをやっているのかという情報を集めて出すことも、区がやれる支援の一つなので、どんな支援ができるかをもう少し考えても良いのではないかな。	長谷川 委員	■第1章5「千代田区の地域特性」で千代田区内の既存のエリマネ団体の一覧(P9)を追加 ■第4章以降で検討
○エリアマネジメントは続くことが大事である。エリア外にいる人、横の連携など、全体を見られる仕組みがあり、繋がる、続くやり方をアドバイスするのがこのガイドラインであり、大事な視点ではないかな。	野原 委員長	■第2章2「千代田区におけるエリアマネジメント活動の将来像」(P19)で他組織等との連携について記載予定